

午後Ⅱ試験

全問共通

全問に共通して、システム監査人としての見識や監査手続を設定できる能力などを問うているが、問題文の趣旨を踏まえていない論述が目立った。また、監査証拠が具体的ではない監査手続に関する記述や論文の体裁が十分整っていない解答も散見された。自らの経験と考えに基づいて、設問で求めている内容について具体的に論述するように心掛けてほしい。

問 1

問 1 では、論述対象とした情報システムの導入に伴う新たなリスク（以下、特有のリスクという）に関する監査についての解答を求めているが、他の情報システムや導入前の情報システムで既に識別されているリスクについての論述が目立った。また、AI や IaaS などの新たな技術そのものをリスクとし、これらの技術を導入することで生じる特有のリスクを明確にしていない記述も散見された。設問イでは、特有のリスクである理由が不明確であったり、その対応策が一貫していなかったりする記述が散見された。設問ウでは、対応策の監査手続だけを記述している解答が散見された。問題文の趣旨や設問で求めている内容を踏まえて、具体的に論述してほしい。

問 2

問 2 では、事業継続計画と整合性が取れた情報システムの業務継続計画（以下、IT-BCP という）に関する監査についての解答を求めているが、事業継続との関連が不明瞭な論述が目立った。設問アでは、IT-BCP の概要について実施する対策の記述が不十分な解答が散見された。設問イでは、目標復旧時間、目標復旧レベル、目標復旧時点の目標を確保するための体制、対策については記述できていたが、それらの目標が妥当かどうかについての記述が不十分な解答が目立った。設問ウでは、監査手続や入手すべき監査証拠を記述していない解答が散見された。また、IT-BCP の実効性について結果事象の見直しに関連した記述がない解答が目立った。設問で求めている内容を踏まえて、論述してほしい。